

96. 横田基地とその前身

新聞の記事を見て、1月22日瑞穂町のけやき館（郷土資料館）で開催中の企画展「開設から85年 多摩陸軍飛行場」を見学した。多摩陸軍飛行場は米軍に接收された横田基地の前身で、軍用機の開発や性能試験を行う「陸軍航空審査部」が置かれていた。

企画展は飛行場の航空写真や管制塔写真などと解説パネル、それに当時のサーチライト等の軍事物品の展示もあった。企画展を伝える記事では、審査部の軍属だった人の「戦争末期、米軍から奪った爆撃機の性能を調べたら、道路上の車まで鮮明に映すレーダー技術の高さに愕然とし、この戦争には絶対に勝てない、仲間もみんな分かっていたが、機密事項なので口外もできず、心の内にしまっておくしかなかった」というのが印象的だった。

ここでは見学資料等を参考に横田基地の歴史、それに現状の横田基地のことを略記したい。

1940年(昭和15)に陸軍立川飛行場の附属施設として、多摩飛行場及び航空整備学校が開設された。42年には陸軍航空審査部が置かれ、陸軍の新鋭機や試作機のテスト飛行が行われた。39～44年に陸軍が買収した土地は957km²（東京ドーム20個分）で、滑走路は約1,200m。終戦直後の45年9月2日に米軍第一騎兵師団1個中隊が進駐し施設を接收したが、はやくも10月には民有地を接收して滑走路を延長している。そして武蔵村山の横田の地名をとって横田基地と名付けたという。

少し脇道に逸れるが、何故「横田」なのか昔は疑問だった。古文書に出てくる村山から瑞穂にかけての青梅街道沿いの継送りをみると東から、中藤→横田→三ツ木→岸→殿谷→石畑であり、横田(村)は基地から離れているからだ。それが横田になったのは、「米陸軍地図サービスが44年に作成した地図資料“JAPANESE AIRFIELDS”では、村山町(武蔵村山市)の大字名であった横田(Yokota)が、福生(Fussa)や箱根ヶ崎(Hakonegasaki)より飛行場近くに記載されていた為」と言われる。つまり地名の記載がずれていたからということだ。

50年6月に朝鮮戦争が勃発すると、極東空軍爆撃司令部の連隊が駐留し、朝鮮戦争の主要基地となった。この時期から軍用機のジェット化が進んだ。55年には拡張計画が出来、56～65年にかけて北側で八高線や国道16号の経路が変更され、南側で五日市街道が分断された。結果、3,350mの滑走路を完備した大規模基地となった。

その後戦闘機部隊は沖縄に移駐したが、ベトナム戦争の激化(1965頃～、75年終結)に伴い輸送基地として重要性が増した。また、ミドルマーカー(昼間電波誘導信号所)が設置され、C-5A等による輸送が活発化し騒音問題も発生した。

74年に関東平野にある米軍施設が横田に統合(関東計画)され、在日陸海空三軍を調整する在日米軍司令部が移転された。50年にはC-130ハーキュリーズを配した第345戦術空輸部隊が移駐し、漸減していた航空機の離着陸も再び増加し、76年には夜間飛行禁止や騒音被害に対する公害訴訟が提起された。87年の控訴審判決で高裁は夜間飛行差し止め請求は却下するも、慰謝料の支払いを認めた。その後も訴訟は続き、現在は「第3次新横田基地公害訴訟」で深夜早朝の飛行差し止めとオスプレイの飛行制限等を求めている。

2012年(平成24)3月には航空自衛隊の航空総隊司令部などが府中基地より移転し、航空自衛隊横田基地の運用が開始され、日米両国の空軍基地となった。

現在の横田基地は、福生・瑞穂・武蔵村山・羽村・立川・昭島(提供面積順)の5市1町にまたがり、広さは7,136km²(東京ドーム152個分)、滑走路は3,350m×60mが1本ある。在日米軍司令部・第5空軍司令部・基地管理の第374空輸航空団などが配属されている。在日米軍

司令部は、日本国内にある米陸海空軍と海兵隊の基地の管理、日米地位協定の運用、米兵・軍属の福利厚生を担う組織だが、作戦指揮権は米ハワイのインド太平洋軍司令部が持つ。現在の在日米軍司令官はスティーブン・ジョスト中将で、本来業務とともに「66,000 人の軍人・軍属および 45,000 人の扶養家族の生活の充実に対して責任を負っている」と www.usfj.mil にある。大変な任務だ。

ところで、米国の軍種は陸海空と海兵隊、沿岸警備隊、それに宇宙軍（2019 年創設）の 6 軍から成るが、昨年 12 月に在日米宇宙軍が発足し司令部は横田基地に置かれた。宇宙軍というのにも驚くが、横田にその在日の司令部が置かれるのは極東アジアの情勢を考慮してのことだろう。発足式でジョスト司令官が「国際秩序を損なうことを目的とする国々が、宇宙での活動を増強している。重要性は明らかだ」と述べたのはまさしくそのことだと思う。

宇宙空間は安全保障上の重要な戦場になろうとしているかのようだ。人類は敵に攻められることを前提に、敵より優れた武器と防備を用意しようとする。それを知った敵はそれを上廻る用意をする。その繰り返しは際限なく、宇宙空間まで利用することになった。敵から見れば横田基地攻撃の重要性はより増すことでもある。

この企画展は少し雑然とした展示ではあったが、単なる横田基地の歴史だけでなく、今も続く戦争について考えさせる貴重なものでもあった。このような展示をもっと開催して、横田基地とは、戦争とは、を問いかけて欲しいと思う。

追加：

企画展では狭山陸軍飛行場のこともあった。私の加筆もあるが次のような内容。

狭山陸軍飛行場は、瑞穂町元狭山地区と入間市二本木地区の北に広がる茶畑に囲まれた台地上に存在した飛行場。外周道路は約 6 km 超で南面の外周道路には入間市立博物館がある。陸軍航空士官学校附属の飛行場として、多摩陸軍飛行場と同じ昭和 15 年に開設された。

狭山陸軍飛行場では、航空士官候補生の飛行訓練が行われ、「赤とんぼ」と呼ばれる複葉の中間練習機（九三式中間練習機か）や高等練習機が配備されていた。

終戦に伴い連合軍に一時接收されるが、ほどなく返還され開墾地となったが、武蔵工業団地の一部になっている。地図で見るとこの飛行場跡は整然と長方形に区画されているので直ぐにわかる。

なお、折々の記では「12. 横田基地とオスプレイ」「80. オスプレイ墜落」「88. オスプレイ飛行再開」で横田基地関係を述べています。

(2025 年 1 月 31 日)